

フランス視察を終えて 強く心に残るあの場面、この場面

大阪府 神谷祐子

① 原子力庁カダラッシュ研究所

アラン氏の言葉「以前の失敗は、まだ時代がそれを求めていなかったのだ」という言葉。

いくら科学技術が進んだと言っても、技術だけでは科学の進歩につながらない。使いこなす人間の哲学が進まない限り科学技術も交代を余儀なくさせられるのだ。だから、教育に大きな比重がかかっていると強く感じた。



② マルセイユ 海辺の風景

戦争、貿易、産業、文化、町づくり、人々の生活。「先人たちは、どんな思いでこの海を見ていたのだろう」と、海を見ると遠い歴史のロマンまでにも、思いをはせてしまう。旅に出たときの、楽しみの1つである。



③ フランス新幹線TGV

「やはり私は日本の新幹線がいい！！」と心に強く思った。第1はこの扉。ボタンを押して、いちいち開ける。そのときの「ポン、ヒューーーーウ、バタン」という音がいちいちうるさい。ドア付近に座っていると、どんどんストレスがたまってきた。200回くらい、耳元で聞かされた。

もう1つは、トイレ。最後まですっきりと流れる日本の新幹線のトイレがいい！



④ おいしいパンとワイン、肉料理

やはりパンがおいしい。そして、ワインも最高！！この2つがあれば、私は当分の間いくらでも過ごせる、というくらい、大好きである。また、肉料理もおいしい。長年の人類の食文化の知恵がそこに集積されているからであろう。



⑤ 高い物価と貧富の差

驚いたのが物価の高さ。ユーロが高騰していることや消費税が12パーセント、ということもあるが、とにかく高い。新幹線の中で、サンドイッチが10ユーロ（約1600円）したと聞いた。普通のお店で見ても、日本円で500円ほどしていた。日本では200円から300円が相場だ。その値段に驚いた。

最低賃金はだいたい日本円で18万程度。パリで2DKのアパートを借りると、その家賃が16万程度。これでは生活していけない。(だから、共働きでやっているとか)パリ郊外でたくさんの落書きを見た。きれいな町並みを誇るどころなのに、こんなところでストレスを発散しなければならないのか、と感じた。

⑥ 百聞は一見に如かず

パリの町並みは、凱旋門を中心に一直線に計画されている、と日本で学んだ。しかし、いくら画像で見せてもらっても、本で読んでも、「ふーん、そうなの」というだけだった。

ところが、パリの新シティからも凱旋門が一直線に見えたときには、さすがに感動した。



⑦ 写真の撮り方

森川氏によって、教材となる写真の撮り方を紹介された。私は今まで、芸術感覚の写真しか意識したことがなかったので、大きな学びとなった。これは、それを意識して撮った写真である。子どもたちに、ぜひ、授業にかけてみたいが、エッフェル塔すら知らない子どもたちには、無理かなあ？



⑧ パリジェンヌが好きなものは・・・

パリジェンヌに人気のあるお菓子の「マカロン」感動したのは、これが東京のパン屋さんにあったこと。もちろん、パリより安い。

また、人気の化粧品のお店があった。そのお店も東京にすぐ見つけることができた。日本の都会にいると、いくらでも海外の産物を手にすることができる。すごいなあ。

